

月刊 En-ichi 圓一

6
no.253

魂の教育を実践する

インタビュー

若者よ、「哲学する力」を身につけよう

長崎大学名誉教授 篠原駿一郎



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の
焦点

今回の大震災を契機に、特に若い人には大きな視点を持って人生観や社会のあり方や国の未来を論じてほしい…文明とは何か、幸福とは何かと考えていく哲学的議論が必要だと思えます。

若者よ、「哲学する力」を身につけよう 篠原駿一郎…6

米国では○五年にハリケーン「カトリーナ」がルイジアナ州を直撃した際、…全米各地にいたボランティア志願者を取りまとめて、現地組織につなげたのが、マッチング組織だった。

人をつなぐ米国の総合ボランティア組織…8

自然体験活動だからこそ得られるものとして、「自然の出来事や現象にどのような“つながり”があるかを知ること」があります。…それで初めて人と自然との関わり、地球全体に関心が向くわけです。

これからの自然体験活動 能條 歩…14

素晴らしいものを私は見ることができました。それは、被災者もボランティアも関係無く、全ての人達がお互いの為に生き合う姿です。…感じたのは、「誰かの為に生きることの偉大さ」です。

教師、学生たちのボランティア…19

3 巻頭言

「私が溢れる社会」でいいのか

北翔大学教授 加藤 隆

4 教育再生への課題と展望

震災を機に「文明とは」「幸福とは何か」を考えたい
若者よ、「哲学する力」を身につけよう

長崎大学名誉教授 篠原駿一郎

8 ワールドアフェアーズ

人をつなぐ米国の総合ボランティア組織

10 家庭学

保護司が見た「非行少年と家庭」

12 情報ファイル

日本への留学生数、過去最高の14万人
ネット上の違法・有害情報4万5000件

14 私の教育実践

これからの自然体験活動 —“つながり”を学ぶことの大切さ

北海道教育大学
准教授 能條 歩

16 昭和は遠くなりけり

震災で見た日本人の行くべき道

筑波大学名誉教授 鈴木博雄

18 特別ページ

「誰かの為に生きることの偉大さ」—教師、学生たちのボランティア

21 子育ては絵本で大丈夫

「さんびきのくま」～こどもは父母の愛、良い家庭を求める

劇団天童/
天童芸術学校代表 浜島代志子

22 Book Review / 読者の声

24 歴史と伝統の探訪

宮沢賢治「雨ニモマケズ」の世界 / 岩手



北翔大学教授
加藤 隆

巻 頭 言



著名なホスピス医が、看護師向けのある講演会で語った内容にとっても興味を覚えた。もし、自分の病状が末期に近い状態になったとしたら、現在勤務している病院で最期を迎えたいかという質問である。それに対して、百五十人ほどの看護師の全員がノーを表明したというのである。理由は大きく三点挙げられていた。

ひとつは、家族を締め出してまで行う蘇生処置に典型的に見られる「やり過ぎ医療」に対するノーである。二つ目は、ガンに対する治療はあるが、ガンを持つている人の心に対するケアが少ないこと、言わば「身体（からだ）を見て、心を診ず」に対するノーである。三つ目は、その人らしさを大事にするよりも、病院主導のパターン化された医療態度に対するノーであった。

翻って考えると、このような光景は、単に医療現場ばかりではなく、我々の多くの生活場面に浸透している意識と態度ではないだろうか。例えば、家庭を考えるとどうだろうか。

「やり過ぎ家族」と聞いて思い当たる節は多い。溢れる情報に踊らされ、子どもの心にドヤドヤと入ってきては弄くり回す保護者と、自尊心を失っている子ども達は決して少なくない。

「身体を見て、心を診ない家庭」はどうか。児童養護施設は全国に六百施設ほどあるが、満員状態が続いている。その殆どは親からの虐待や育児放

「私が溢れる社会」でいいのか

棄である。飽食の現代社会にあつて、多くの子ども達は愛情に飢えているのではないだろうか。

最後の「パターン化した家庭」も深く浸透している。勝ち組と負け組に単純化して、人々を思考停止に陥らせる社会風潮と家庭への影響は計り知れない。或いは、幼少期から受験競争を挑ませ、パターン化された幸せの方程式に寄り纏る家庭の悲劇と喜劇は枚挙に暇がない。

さて、我々は何かを忘れていないのではないだろうか。すべての発想や生活が、「私」という基点から始まっているのである。まさに、「私が溢れる社会」が到来しているのだ。宮澤賢治の作品「春と修羅」の中に、「わたくしという現象は、仮定された有機交流電燈の、ひとつの青い照明です。風景やみんなといっしょに、せわしくせわしく明滅しながら、いかにも確かにともりつづける、因果交流電燈のひとつの青い照明です。」という文章がある。ここには、仮の姿にも等しい人間が、世界とからみ合う中でのみ彩りを与えられ、存在の光を灯すことができるのだというメッセージが込められている。また、旧約聖書には「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」という至言がある。人生というものを、より大きな相の中で捉えることができた時、「私が溢れる社会」も変容し始めるのではないだろうか。

震災を機に「文明とは」「幸福とは何か」を考えたい

若者よ、「哲学する力」を身につけよう

大学で哲学の講義が減っているという。若者にはもっと人生や社会のあり方を考える力を身につけてほしい。

大学が哲学講義を減らしている

—大学で哲学の講義が減っているという話があります。

大学が哲学講義を減らしていますね。一般教養には少しありますが、担当する教員は削減されています。以前は哲学担当の教員が大学に六、七人いましたが、今は二人ぐらいでしょう。

日本の大学全体が一般教養を軽視して、実学を増やす傾向にあります。英語の授業でも以前は文学をよく読んでいましたが、私たちもそうした文学に強い印象を受けました。授業をきっかけに作家に興味を持って、後で翻訳本を買っ

て読んだりもしました。今はコミュニケーションが中心です。発想が実学なのです。本当は「すぐには役に立たない学問」をもっとやらないといけないと思います。

私は教育学部に在籍していましたが、子供たちに「哲学的に物事を考える」とはどういうことを考えてもらいたいという思いで、『哲学するって、こんなこと？』（未知谷刊、二〇〇八年）という本を書きました。

知識を蓄積することはもちろん大切ですが、知識の根底を見つめ直してみようと言うのでしょうか。「私たちが生きているということ、そのことには価値があるよ」「自分の人生の行路を自分で切りひらいていくためには『考える力』とい



篠原駿一郎

しのはら・しゅんいちろう

長崎大学名誉教授

1944年福岡県生まれ。九州大学で工学を専攻、後に哲学へ。ロンドン大学大学院で哲学を学ぶ。帰国後、私大講師などを経て、長崎大学教授を務める。近年は生命倫理を中心に倫理学を研究。著書に『生と死の倫理学』『男と女の倫理学』『専業主婦のススメ』他。



哲学すること、議論する
訓練をもっと学校でも
やってほしい

う自分自身の羅針盤を鍛えるんだ」という問題提起をしました。「考える力」というのは「哲学する力」ということです。それを教師と生徒二人が対話する対話形式で分かりやすく書いたつもりです。

私が言う哲学の意味は、物事を基本的なところから考えて、自由に批判し合って、社会でより良いコンセンサスを得ていくということです。そのような訓練をもっと

学校でやってほしいと思います。

議論して良い結論 見つけるのが苦手

—最近の学生は物事を深く考えようとしなれないと言われますが。

自分が日常的に拠って立つ基盤を考えるとという意味では、確かに考えることが少ないのではないのでしょうか。言われたことは一生懸命覚えるけれども、「君の意見は」と聞かれると話せない。人生観や天下国家を論じるといったことも少ない。そういう状況があります。

日本人は思いやりがあり、人のために尽くしたいという気持ちを持っていて、これは今回の東日本大震災でも示されました。こうした国民性は本当に素晴らしい。

その一方で、日本人はどちらかというと批判精神を持って物事を見るのが苦手です。議論し合って、より良い結論を見つけ出そうという気持ち日本人には欠けているという気がします。そういう経験を多くの日本人はしてこなかった

のではないのでしょうか。

例をあげると、政府が打ち出している「男女共同参画社会」です。私は以前からこの理念には批判的ですが、「男女差別だ」と言われると、異見を言いにくい。男女共同参画に全面的に反対ではないけれども、いろいろな問題があると思っても、それを公の場で言うことができないう風潮があります。一般に日本では、同じテーブルに座ると、多数意見に反論が出来ない。本当は「いや、こういう考えもあるんじゃないか」と言っていいたいと思うのです。

—最近サンデル教授の哲学の授業が話題になっています。

サンデルの主張には賛否もあるようですが、確かにあの授業形式は興味深いですね。もちろん米国の学生たちはある程度議論に馴れていますし、サンデルも授業でどのような議論をするか、大学院生などを使ってかなり準備しています。日本でもたくさん読まれてい

若者には大きな視点を持って、 人生観や社会のあり方や国の 未来を論じてほしい

るようですが、サンデルの言いたいことに賛同するというよりも、あのような講義の形式に魅せられたのではないのでしょうか。サンデルも学生たちも堂々と議論しています。日本人は苦手なところですね。かつてベストセラーになった『ソフィアの世界』（ヨースタイン・ゴデル著、NHK出版、一九九五年）は哲学史の話でした。傾向は違いますが、昨年は『超訳ニーチェの言葉』（デイスカヴァー・トゥエンティワン）がよく売れました。哲学への興味は、いつの時代の人も変わらず持っているものです。

自然と共に生きる 生き方を考える

―震災のお話がありました。今回の震災をきっかけに自分の人生を見つめ直したという人も多いと思います。

今回のことを契機に、特に若い人には大きな視点を持って、人生観や社会のあり方や国の未来を論じてほしいと思います。



私を感じたのは、人間はもう少し自然と共に生きる生き方を考える必要があるだろうということでした。現時点では、被災者をどうサポートするか、原発問題をどう処理するかが緊急課題ですから、文論の話まではそれほど出ていません。しかしこれを機会に、文明とは何か、幸福とは何かといったところから考えて、私たちの生き方や社会のあり方を見つめ直していく哲学的議論が必要だと思えます。

また、若い人を中心にボランティアが盛んになっていますが、日本人は元々、助け合いの精神を強く持っていました。

欧米の人たちからボランティアという言葉を知り、またサンデル教授が言う「コミュニティアニズム（共同体主義）」という思想が出てきました。それを日本人も受け入れましたが、元々日本人はボランティア精神があつて、助け合いは当たり前でした。

和辻哲郎が『人間の学としての倫理学』で、人間は人と人との関係で成り立っていると、人間の本质を書いています。そういう意味で日本人はもともと共同体主義者の資質を持っていると私は思っています。

「性役割」のことも 言えない雰囲気

ところが、その日本で毎年、三万人が自殺しています。物質的にこれだけ豊かな時代に自殺者が三万人もいるということは、人間の幸福とは何かを考えさせられますね。人間は目標があると、生きる意欲が生まれます。現代は夢や目標が持ちにくいのもかもしれません。

根本的なことを考え直す 力がないと、新しい発見 はない



篠原 謙一 著『哲学するって、こんなこと？』（未知谷刊）

学的な議論、対話をやってほしい。日

本にはデイベートの伝統があまりありません。批判すると感情的になりやすいですね。人を思いやる日本人の素晴らしい資質とともに、一方では議論する力が必要ではないかと思っています。

絶対には必要です。そのためには哲学的な議論、対話をやってほしい。日

本にはデイベートの伝統があまりありません。批判すると感情的になりやすいですね。人を思いやる日本人の素晴らしい資質とともに、一方では議論する力が必要ではないかと思っています。

自殺の直接的原因には病気や経済苦があると言われますが、私は根本には家族、親戚、地域社会のつながりが薄れて、皆が孤立していることがあると思っています。それから男女共同参画のことを言いましたが、男性と女性は共通する部分も多くありますが、女性にも男性にも各々の役割があると私は思っています。

もちろん人生は長いし、女性が子育てを終えたら社会に出ていけるような道筋を作ることは大切です。だから昔のように「女は家がいればいい」と言うつもりはありません。それでも役割分担は子供を育てる上で重要ですし、かつては女性が家庭の中心にいて、子育

てと家族のこと、地域のことには重要な役割を果たしてきたことは確かです。

ところが、現在の政策では待機児童の問題ばかりが取り上げられる。子供を預ければそれで立派に育つということではないはず。しかし、こうしたことも率直に言えない雰囲気があります。

数学も物理も 哲学のテーマ

—では、教育者に期待されることをお願いします。

繰り返しになりますが、知識の

—当たり前だと思っていたことを、どうしてだろうと考え直すことが、新しい発見のきっかけになるという話も多いですね。

基本を問い直すような力、哲学的に考える力を子供たちに身につけ

—当たり前だと思っていたことを、どうしてだろうと考え直すことが、新しい発見のきっかけになるという話も多いですね。

させてほしいと思います。受験に役に立たないと軽ん

—当たり前だと思っていたことを、どうしてだろうと考え直すことが、新しい発見のきっかけになるという話も多いですね。

じられてきました

—当たり前だと思っていたことを、どうしてだろうと考え直すことが、新しい発見のきっかけになるという話も多いですね。

が、長い人生には

—当たり前だと思っていたことを、どうしてだろうと考え直すことが、新しい発見のきっかけになるという話も多いですね。

絶対には必要です。

—当たり前だと思っていたことを、どうしてだろうと考え直すことが、新しい発見のきっかけになるという話も多いですね。

そのためには哲

—当たり前だと思っていたことを、どうしてだろうと考え直すことが、新しい発見のきっかけになるという話も多いですね。

大量動員可能にした マッチング組織

東日本大震災を受け、被災した地域に入って活動する災害ボランティアが急増している。特にゴールデン・ウィークは自身の休日をなげうって、苦境に陥った人々を支えたいと現地入りする人々が後を絶たない。

首都圏などの大都市圏では、大規模なボランティア組織がボランティア志願者をまとめ、継続的にボランティアを送ることができると。しかし、地方になると、ボランティアを取りまとめることができる組織は少ない。申込窓口となる各県の社会福祉協議会も、受け入れ能力に限界があり、「助けない」という思いがあっても、どこに訪ねて行けばいいのかわからないという課題がある。

一方、米国では○五年にハリケーン「カトリーナ」がルイジアナ州を直撃した際、その直後から災害ボランティアが続々と現地入りし、

様々な支援活動を行っている。

全米各地にいたボランティア志願者を取りまとめて、現地組織につなげたのが、マッチング組織だった。マッチング組織があったため、大量のボランティア動員が可能だった。

ワールド・アフェアーズ

人をつなぐ米国の総合ボランティア組織

米国では毎年、国民の四分の一がボランティア活動に参加する。「人が人を助けるのは当たり前」という奉仕精神が根底にあるためだが、この心意気に活動の場を与えているのが、ボランティア組織をあっせんするマッチング機関だ。

ジャーナリスト・内田宏

たわけだ。

その米国で全米一の規模を持つ総合ボランティア組織が「ポインツ・オブ・ライト・インスティテュート」だ。一九八九年、ブッシュ元大統領の呼びかけにより、ボラン

ティアとボランティア組織とのマッチングを目的として設立された。この組織は、多くの国民が奉仕活動に参加できるように、そしてボランティア組織がより多くの人材を活動に巻き込めるよう、援助を行うことを趣旨としている。

互いに助け合う 社会の実現

また、ポインツ・オブ・ライトは各ボランティア団体をまとめ上げる横断組織として、民間としては全米最大の規模を誇る機関でもある。全米のボランティア組織のまとめ役として、「サーブ・ネイション」など、全米規模のサーブ・プロジェクトを呼び掛けてきた。

ポインツ・オブ・ライト設立当時、ボランティア組織は草の根レベルでそれぞれが独立して活動しており、社会への影響や期待もそれほど高くはなかった。奉仕や福祉分野での活動はもっぱら、大企業や政府系の機関、もしくはそうした組織からの援助を受けた財団法

人が担っていた。

しかし、自主自立、そして自守こそが建国の精神と見る共和党保守派だったブッシュ氏は、政府や企業に寄生するような福祉の在り方に疑問を呈し、米国民がお互いを助け合うことのできる社会の実現を目指した。

八九年の一般教書演説で国民や社会共同体を「サウザンド・ポイント・オブ・ライト」(何千もの善き光の点と見立てた有名なフレーズをそのまま、組織の名前に使用したのも、元大統領の「国民よ。国家の主役たれ」との願いが込められている。この組織が設立後二十年以上たっても、米国民に大きなインパクト、そしてビジョンを示すことができるのは、こうした深い精神性によるところが大きい。ポイント・オブ・ライトは現在、構成員二千五百万人の規模を持つ「世界最大」のボランティア横断組織に成長している。同組織は大きく分けて、ボランティア活動の母体としての「ハンズ・オン」、活動維持のための経済基盤「ミッショ



「ポイント・オブ・ライト」のホームページ

合併。これにより、米国内に二百四十、国外に十一のボランティアセンター、NPOや宗教系、教育団体、地域拠点型など七万の様々なボランティア組織が集う驚異のネットワーク網が構築された。

この部門では、ひと月に三万件のプロジェクトを実施。草の根レベルのネットワークを持つことで、

地元に近い場所で、その人のニーズに合った活動を提供。より多くの人が奉仕活動に参加できる環境を整えている。昨年は、ボランティア参加者の奉仕時間は、三千万時間に到達している。

「家族単位」の活動にも力を注ぐ

また、米国では企業が従業員に奉仕活動を義務付けているため、個

人のみならず企業がマッチングを依頼してくる場合も少なくない。一例をあげると、四月はスターバックスの従業員と顧客を対象にした奉仕活動が行われている。シアトルやニューヨーク、ロサンゼルスなどで清掃奉仕や公園の設備整理などが行われたという。

さらに「ハンズ・オン」は、自身の持っている技術・体験を生かして社会貢献するプロボノ活動へのネットワーク構築やマッチングにも熱心だ。希望者にどのような活動の場があるかを紹介。加えて、より効果的に活動できるよう、ボランティアセンターなどで指導を行って来た。

また、特記すべきことは、ポイント・オブ・ライトは、家族単位でのボランティア活動にも力を注いでいることだ。米国では、「ナショナル・ファミリー・ボランティア・デー」「ナショナル・ファミリー・ウィーク」など普段は離れて生活している家族が集う十一月の感謝祭の週に制定されているが、その中でも積極的に行事を行っている。■

保護司が見た 「非行少年と家庭」

保護観察処分を受けた非行少年。保護司が見た彼の家庭では、親という人間形成のモデルが機能していなかった。社会学者の末吉重人氏に寄稿してもらった。

暴行で保護観察の 中学三年生

以下は保護司の友人から聞いた話である。

少年A君は下級生への暴行が原因で家庭裁判所に送致された。その原因は、威張りたい盛りの中学三年生になった四月（中三は最上級生なので下級生を威圧することが出る）、生意気な二年生を学校近くの墓場に呼びつけた。かねてから態度が生意気だと注意していたにも係わらず、一向に改める気がないのが理由であったという。

非行グループを率いるA君は、他のグループメンバーの誰よりも強くその二年生を殴らないと示しがつかない。その結果、あばら骨を折ってしまった。

少年鑑別所に留置され各種の検査を受け、それをもとにした家庭裁判所の審判は保護観察処分であった。少年院行きとはならなかった。そこから保護司との付き合いが始まった。

保護司宅を初回面接で訪れたA君は、母親と一緒であった。平身低頭の母親に対して時々「ウゼエ」と粹がるA君。ここでバシッと「親に対して何を言うか」と怒るべき

か、否か。保護司は迷ったが、まだA君との信頼関係もできていない為、ここは我慢のしどころだと思ひ、ぐつと怒りを心に仕舞い込んだ。

保護観察処分の少年は月二回、保護司宅を訪問しなければならぬ。更正する意思のあるところを見せなければならぬのである。保護司のなり手が少ない理由のひとつは、犯罪者を自宅に招くことに抵抗があることだ。極端な例だが、昨年七月、茨城県の女性保護司宅が、保護観察中の少年によって放火され全焼する事件もあった。現行法では補償措置がないため、全国保

護司連盟は支援金を募った。

一年間の保護観察

少年A君の事例に戻ろう。A君は保護司との面接の時間によく遅れた。一時間は普通、時には二時間も遅れた。何をしているかと言えば、大体は寝ている。活動が夜型なため、夕方の面接時間はA君にとって起床前なのである。しかし、遅れて来ても悪びれる様子もない。かわいいと言えばかわいい。保護司はボランティアであり、自分の時間のすべてをA少年のために使うわけには行かない。何度か時間を守るよう指導するが効果はない。とにかく、無事、中学を卒業した。

卒業後はアルバイトのような就業形態になった。最初は非行少年にとって定石の、建築関係であった。しかしその仕事はすぐ止め、飲食店での接客となった。店長からは愛想がいい、とのことで引き立てられた（しかし時給を聞いてみると最低賃金より低い。非行少年

は時に大人から利用されることがある)。

保護観察は、非行少年の場合、通常一年間で解除となることが多い。A少年もこの時点で終了となった。その後、大型店舗でばったりあった際、彼女を連れていた。もうすぐ結婚することのこと。子どもも生まれるとあつけらかに語っていた。

人間形成のモデルは機能しているか

さて、その少年の家庭環境である。父母は健在だ。弟妹もいる。非行の原因は何だろうか。ケースを遠くから眺めている分には、原因を「特定」しやすい。しかしケースに近づくと判らなくなることがある。A君の場合、家庭に原因を求めるとすれば父親が機能していなかった可能性がある。仕事は大工だが、帰宅後は飲んでいることが多い。そういう夫を妻は尊敬できない。自然、夫婦仲はよくない。しかし父親の名誉のために言っ



家庭で親が最初の「人間形成のモデル」になっていることが大切

おくべきだが、A君の弟の自転車を修理している姿を見かけたこともあった。

フロイトの理論では、人を社会的ルールに従わせようとする心の機能を「超自我」と呼ぶ。それは父親のイメージだという。つまり父親割(必ずしも父親というわけではない)がその超自我を形成することになる。その点、A君の家庭は父親割が機能していなかったかもしれない。また夫婦の不仲が、A君には両親がよき人間形成のモ

デルとならなかった可能性もある(しかしA少年は父親は好きだと言っていた)。

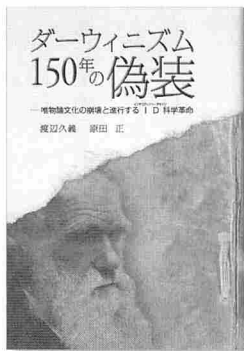
非行少年は保護司や学校の先生を含め、さまざまな大人を振り回す。親という最初の人間形成のモデルが機能が果たさなかったため、地域がその役割を果たさなければならぬ。彼らはそうしながら大人になっていくしかないのだろう。彼らには「振り回す、親以外の大人」が必要のように思う。E

本書は、多くの人々の目を覚まさせるに違いない！
しかし本書は、ある種の人々を間違いなく不快にさせるだろう…

ダーウィニズム150年の偽装

——唯物論文化の崩壊と進行する I D 科学革命

なぜ唯物論という「いびつな哲学」が社会を支配してきたのか。ここに、鮮やかな謎解きの旅が始まる。



渡辺久義/原田正 著
A 5 版/324ページ/ハード
カバー上製本/2500円+税

ご注文は書店へ お急ぎの方は下記までご連絡ください

アートヴィレッジ <http://art-v.jp>
受注センター: 〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18
TEL.078-882-9305 FAX.078-801-0006

留学生数の推移

日本への留学生、過去最高の14万人 中国留学生は10年間で約3.3倍に

二〇一〇年五月

一日現在、日本に在留する外国人留学生の数は過去最高の十四万七千七百七十四人。この十年間で約一・五倍に膨らんだ。その多くは中国からの留学生が増えたことによる。ユネスコ統計によると、全世界の留学生数三百万人のうち、中国の留学生は約四十四万人。最も多くの留学生を世界に送り出している国が中国である。中国の留学生の急増ぶりは突出し

留学生総数と中国留学生数の推移



ている。日本学生支援機構がまとめた日本への留学生数の国別の推移を見ると、一九九九年、中国留学生は約二万六千人だったが、入国審査の受け入れ緩和で四年後には七万一千人（二〇〇三年）に急増した。その結果、留学生十万人受け入れが一応の達成を見た。

その後、留学生による社会問題が顕発、質の低下が懸念され、一時減少に転じた時期もあった。だが政府

の留学生三十万人受け入れ計画が打ち出されると、再び留学生数は増加し始める。中国の留学生は、翌年〇九年には前年比九・〇%増の八万六千七百七十三人に膨らんだ。留学生全体の六〇・八%を占める。二位の韓国約二万二百二人（二四・二%）を大きく引き離している。

法務省の入国管理局によると二〇〇九年末現在、日本に在留する中国人は約六十八万人。十年前の二倍以上に膨らんだ。在日韓国・朝鮮人を上回り、中国人は国内で最大の外国人勢力だ。政府の留学生三十万人計画では、二〇二〇年までに目標達成を見込んでいる。このまま行けば、遠くない時期に中国留学生は十八万人を越すことになる。

日本は少子化による学生数の不足や労働力不足を補うために、留学・就学、就労、研修の目的で積極的に外国人受け入れを計ってきた。ただ、留学生を受け入れる上で、国際社会で日本の立場を引き上げるような、より大きな戦略が必要ではないか。

「インターネット・ホットライン」

違法・有害情報、1万件増の4万5千
件に 事件摘発は400件

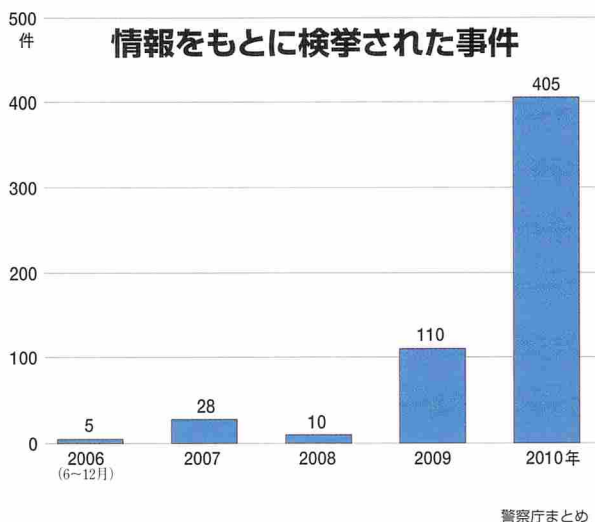
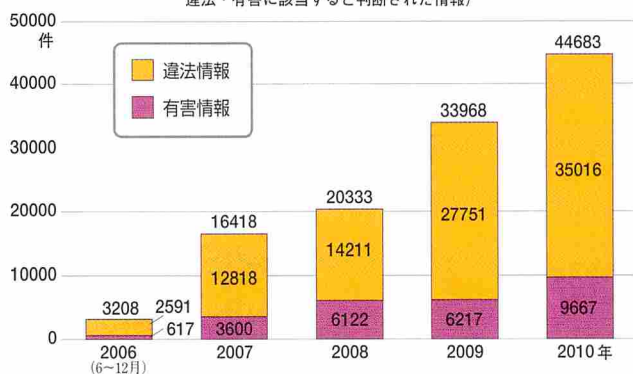
児童ポルノなどインターネット上の違法情報や有害情報について、昨年一年間に「インターネット・ホットラインセンター」が受理した通報件数は十七万五千九百五十六件

に上り、前年より三四%余り増えたことが、警察庁のまとめで明らかになった。同センターは、警察庁が財団法人インターネット協会に委託して

二〇〇六年六月に運用を開始。ネット上の違法・有害情報を一般利用者から受け付け、サイト管理者やプロバイダーへの削除依頼などを行っている。

ネット上の違法・有害情報件数

(インターネット・ホットラインセンターが受理し、違法・有害に該当すると判断された情報)



まとめによると、通報を分析して、違法・有害情報に該当すると判断されたのは四万四千六百八十三件で、前年より一万余り増えた。このうちわいせつ物、児童ポルノなどの違法

情報が三万五千十六件、集団自殺を呼びかけるなどの有害情報が九千六百六十七件だった。

また、違法情報の中でサイト管理者などに削除を依頼した一万六千四百二十二件のうち、実際に削除されたのは一万二千四百五十件(削除率七五・八%、前年比一二・二%減)、有害情報も二千八百六十件のうち千四百七十件(同五一・四%、二七・〇%減)にとどまり、削除に応じないサイトが増加している。違法情報を掲載した三千四百一十一サイトのうち半数がメールアドレスなどの連絡先を掲載していなかった。

情報をもとに検挙したケースは四百五件で、前年より二百九十五件増えた。最も多いのは児童ポルノ事件で、百七十八件(前年比百六十一件増)に上っている。また四月からは、児童ポルノ画像を掲載するサイトへの接続を強制的に遮断する「ブロックング」が、大手プロバイダーで作る業界団体によって始まっている。

これからの自然体験活動

「つながり」を学ぶことの大切さ

今年四月から、小学校で自然体験活動が本格的に取り入れられている。子供たちが学んだ知識と活用が「つながり」が期待される。

学校と学校以外の 学びを統合する

新しい学習指導要領が実施されることにより、来年度（二〇一一年度）四月から、学校でも本格的に自然体験を取り入れることになりました。こうしたことにはどのような背景やねらいがあるのでしょうか。

子どもたちを対象にした調査によると、「日の出や日の入りを見たことがない」「トンボを捕まえたことがない」といった子どもたちが増えていて、子どもの自然離れが進み、しかも年を追うごとにその距離が大きくなっていることがわかってきます。都市の子どもと郡

部の子どもを比較しても、自然離れの傾向に差は見られませんので、「自然離れ」は日本全国の子どもたちに通じて見られる現象であるといえます。

ところで、学校教育では普遍的・一般的な知識とスキルを系統的に学びます。それらの知識は多くの場面に応用可能なものではありませんが、学ぶときには具体的な活用場面が明確でない場合が多くなっています。一方、学校以外でも何かを学ぶ場面はたくさんあります。家庭でのお手伝いをきっかけに何かができるようになることもあるでしょうし、遊びの中でもたくさんすることに気づけます。そこで得られる知識は具体的・個別的なもので、すぐに活用できるもの

が系統的とは言えず、応用の範囲が必ずしも広いとはいえません。この二つの力はどちらも必要です。で、両者を統合する工夫が必要です。それがなければ、知識はあっても応用できないということになってしまいます。昨今指摘される「生きる力の不足」とは、簡単に言えばこのような「応用力の不足」をさしています。

自然体験活動で 期待できること

こうした「自然離れ」と「生きる力不足」が自然体験活動の導入にあたっての背景といえます。これらの問題の解消のためには、学んだことを生かせるようになるた

めに、知識の活用ができるような状況をセットで学ばせなければなりません。たとえば、平行四辺形の面積の出し方を学んでいても、「二つの公園の面積を比べたい」などの具体的状況がなければ、学んだ計算の生かし方はわかりません。日常生活の中に状況を見い出さないと、「学校で勉強したことは何に役立つのだろうか？」という疑問も解消されません。こうしたことの解決のために、自然の中の体験活動で、子どもたちに知識を活用すべきたさんの状況を提供できるようにすることが期待されている

能條 歩

のうじょう・あゆむ
北海道教育大学准教授

昭和38年生まれ。北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了。専門は自然体験教育学、地球環境科学。高校教諭を経て、北海道教育大学岩見沢校助教。道ネイチャージャーゲーム協会理事長などを務める。著書に「自然体験活動を学校教育で」他。



のです。

そのほかに、学校教育において自然体験を行うことで期待できることは何でしょうか。

一つは、原体験（感覚体験）を補うことです。「あつい」「ざらざら」「まぶしい」といったことは五感で知覚する自然の直接体験です。自然との距離が離れると、こうした体験自体が減ってしまいます。こうした体験は、もちろん子どももの成長にも必要ですし、何より感覚を表現する言葉の獲得には体験が不可欠です。

二つ目に、異なる価値観との出会いがあります。例えば、都会に住んでいる子どもが農村に行つて農家の人の考えに触れることは、異なる価値観に触れることになりません。あるいは、同じ四月でも、北海道・東京・沖縄では咲く花も気温も違っているので、そこから感じられる季節感も異なるものとなっています。そうしたことを体験を通して学ぶことで、自分が育つた所と別の場所の暮らしに触れ、そこにある自然と人の関わりに起因



する様々な価値観を学ぶことができます。

また、自然体験の中には「見える効果」と「見えない効果」があります。例えば薪に火をつけることができるような、具体的に何ができるようになるのは「見える効果」です。「見えない効果」とは「いろいろなものがあるな。ステキだな」といった気持ちの変化のことをいいます。気持ちの変化によって行動の仕方が少しずつ変わっていくので、「見えない効果」が蓄積することは、長い目でみると大きな効果を生むこととなります。その他、自己効力感や成功体験が得られ、学習意欲やモラル、自主性・

自立心が高まるといった報告もされています。

体験を重ねて理解

ところで、コミュニケーション

能力や自立心、学習意欲を高める、あるいは規律を守れるようになることも自然体験活動の効果としてあげられますが、これらの効果は自然体験でなくとも得られます。したがって、実際に計画するときには、「自然の中に出かけるからこそ得られるものは何か」ということを大切にすべきです。自然体験活動だからこそ得られるものとして、「自然の出来事や現象にどのようなつながりがあるかを知ること」があります。例えば子どもたちは、生態系に「食う／食われる」の関係があることも学んでいます。生物の生態と山や川などを別々に理解していて、肝心のそれらのつながりについては理解していません。自然体験活動は、自然の事物を目の前にしての学習ですから、それらの

つながりをイメージできるようなプログラムが実施できます。つながりを学ぶ中で、初めて人と自然との関わり方の歴史、あるべき自然との関わり方、地球全体に関心が向くようになるわけです。

小学校で義務教育の一環として取り入れるということですから、今後自然体験活動は全ての国民が体験するものとなります。それが今までと最も違うところです。学校での活動は否応なく参加することが求められますので、中には乗り気でない子どももいることでしょう。しかし、最初は言われたからやったということであっても、体験を重ねていくことを通して「こういうことなんだ」と自分の中で意味が見えて、大切さが分かってくるということが期待できます。そして、個人内で「体験の量が質に転換すること」が、やがて社会全体の自然に対する考え方の転換に繋がるのではないかと思います。

■

北海道人格教育懇話会（二月八日開催）より

震災で見えた日本人の 行くべき道

東日本大震災から約二カ月。これまで多くの重荷を克服してきた日本人はまた、厳しい道を歩み、克服していく決意を胸に秘めていきたい。

国民の力をまとめる ためには

関東大震災（一九二三年〈大正十二年〉、死者九万余人、全壊・焼失家屋四十九万五千戸）以来の大災害と言われる今回の大地震は、東日本全域にまたがる地震や津波という自然災害に加えて、福島原発からの放射能汚染という未曾有の人工災害とが同時に重なり合っただけに国や地方、国民もその対応に戸惑うところが多々あった。

こうした非常事態には、まず、不安・動揺する人心の安定のために、指導者が先頭に立って被災者の支



日本はあえて厳しい道を歩まなければならない

援、被災地の復興に乗り出すことが期待される。今回の場合は、政財界の動きを見ていると、この点

で充分とは言えないものがある。今、その間の動きを改めて検討して見ると、

①被災民の初期対応はその災害の甚大さに比し、比較的冷静で、大きな社会的な混乱はなかった。この点は地域の絆がしっかりしていたからであって、大都会では恐らく空前の大混乱になったものと考えられる。ただし、その後の政府や地方行政の対応は迅速さと適切さを欠き、そこから問題がこじれて早期解決を困難にしているように見受けられる。

②今回の大震災に対する被災者支援や被災地復興に寄せられた国民の励ましや援助は様々な形をとって、莫大なものになった。婦人たちの自主的な奉仕活動や学生青年らの自発的な努力、北海道や九州など遠隔地からの応援メッセージなどを見ると、正に日本国民はこの大震災に遭って、それまで見えなくなっていた助け合いという日本の伝統的美徳を発揮したということが出来る。

問題はこの自発的な国民的まとめりが、いつまで保持出来るかという点である。それには自然発生的に盛り上がった国民の力を、

国民自らの手でどのようなまとめ、長続きのする組織にまで作り上げていけるかということになる。これこそ、日本の民主主義の将来を占うものと言うことが出来る。

総合的な統括のシステムがない

③ 今回の大震災は原発からの放射能の流出という点で国際的にも注目を浴びているのだが、日本政府は国内的対応に心を奪われて、事態を率直に世界に伝えることに充分ではなかった。このため、韓国やロシアなど近隣諸国に不安を与

えなかったとは言えないのである。

これは今回の原発事故を国内問題として見る政府や行政当局の視野の狭さを示すものであって、今後とも放射能汚染に限らず、常に国際的な視野の中で考えていく習性を身につける必要がある。

④ 以上考察してきた諸点を考慮すると、日本には重要な事案に直面した時に、直接対処する部局だけでなく、一段高く広い立場から総合的に統括するシステムが無いのか、あっても十分に機能していないことが痛感される。

今回の震災の現実から立ち直るにはかなりの厳しい道のりが予想

され、経済的、社会的にも重荷を背負って歩まなければならないことが明らかである。これはこれまで平和や高度成長の美酒に酔いしれていた日本国民に向かって発せられた警告と捉えて、逃げることなくしっかりと受け止めていくことが必要である。

厳しい道を胸に秘めて

顧みれば明治以来、日本はこうした数々の重荷を一つずつ着実にこなしてきたことよって成長し発展してきた国である。『臥薪嘗胆』は明治期の三国干渉以来の国

民的合い言葉であった。

今後は日本を取り巻く国際情勢の変転を考えると、あえて厳しい道を歩まなければならないことをしっかりと胸に秘めておくことが必要であろう。原発問題とはそれほど日本の将来にかかわる重大な問題なのである。E



鈴木博雄
すずき・ひろお
筑波大学名誉教授

日本人は偉大だ

いちばん心に響く！ 世界に誇る20人の生き方

杉原千畝	朝河貫一	織田 樞次
望月カズ	野口英世	今西 錦司
新渡戸稲造	鈴木大拙	新島 襄
西岡京治	ラグーザ玉	ほか

学校でも
ちやんと
教えて
ほしい！
日本の心



誇りと自信が
湧いてくる！

増子岳寿 著 四六判/246頁 1680円

ご注文は書店へ、お急ぎの方は下記へ

コスモトゥーワン
tel.03-3988-3911 fax.03-3988-7062
http://www.cos21.com
〒171-0021 豊島区西池袋2-39-6-8F

「誰かの為に生きる」との偉大さ」を実感

教師、学生たちのボランティア

東日本大震災の被災地では、多くのボランティアが集まり、活動している。被災地を訪ねた教師、学生ボランティアの感想を紹介する。

担任する子供たちに伝えたいこと

小学校教師

連休を使って教師三人、友人と一緒に宮城を訪ねました。仙台市の荒浜地区と石巻市を回



りましたが、大震災から五十日以上たった今でも、すさまじい状況で、言葉が出ませんでした。海沿いの被害の大きかった地域では、何とも言えない重苦しい雰囲気を感じました。犠牲になられた方のご冥福を祈りながら、「自分がこの場にいたら、子供たちの命をしっかりと守ることが出来るだろうか」と自分に問いかけました。荒浜小と大川小では、「みんな、上に行け！」と叫ぶ先生方や子供たちの声が聞こえてくるようでした。今こうして生かされている自分が、この命と魂をいかに使っていくのか、何をなしていくのかを考えさせられました。そして、現場で懸命にがれきの処

理をしている作業員の方々、自衛隊の方々、警察の方々を目の当たりにして、支え合う日本の復興への息吹も感じることができました。今回体験したことや感じたことは、担任している子供たちにも伝えていきたいと思えます。特に防災のこと、誰かの為に生きている人々が大勢いることを。

先人の教訓を学ぶ

中学校教師

大震災で多くの犠牲者が出た宮城県石巻市立大川小学校を訪れました。

校門には祭壇が設けられ多くの花束が折り重なるように供えられ

ていました。助けてあげられなかった父母や教師たちの無念さが伝わってきて、同じ教師として熱いものがこみあげてくるのを抑えることができませんでした。

報道によれば東北の三陸地方には、先人の教訓「てんでんこ」という言い伝えがあり、大地震が起きたら津波が来る前に、集合や整列もせずに各自が近くの住民と自主的に避難するというものでした。今回、釜石市では、この教訓通りに高台に避難し、犠牲者がほとんどなかったということです。

大川小の現場では、集合、点呼、整列して避難を実行。そのことで避難が遅れ、児童の前列に津波が襲い被災したということです。

私の勤務校でも、震災当日、グラウンドに避難したものの、本来の避難先である体育館が倒壊の危険ありと判断されたため、寒いグラウンドで待機か帰宅させるか意見が分かれました。

現場にいる人たちは何を根拠に決断すればよいのでしょうか。大川小の悲劇を再び繰り返さない

めにはどうすればよいのか。その答えの一つが、「てんでんこ」でしょう。先人の教訓を決して忘れてはならないと感じました。

困難にあっても 天をうらまらず

小学校教師

仙台の荒浜小と大川小を訪ねました。震災から一カ月半が経っていましたので、少しは先が見通せるかと淡い期待がありましたが見事に打ち砕かれました。海岸地域の復興はあるのだろうかと感じるほどの様相でした。

多くの小学生と教員が亡くなった大川小。父母や教員がどれほど無念と感じたことでしょうか。急な崖となっている裏山を見ました。小一の子供にここを登れとは言えない教員を思い浮かべました。何回も言葉にならない感情を吐き出しそうになりましたが、被災地の中学校で卒業生が「どんな苦難にあっても、決して天をうらまらず」と天を仰ぎ泣きながら挨拶

をしていた映像を思い出し、我々は「許し、愛し、団結」していきしかないんだと思いました。

確かに原点に返れるときかもしれません。隣近所のことを思いながら村を作り、自分は何者なのか、何ができるのかとひとつずつ自分に問いかけ、きつと自分の存在価値を確認して行く時なのです。

月並みですが私は同じ日本人として役立てるように、日本人であることを誇れるように生きていくことを誓いました。

お互いの為に 生き合う姿

大学4年生

被災地で、家、車がめちやくちやになつて光景を目の当たりにして、いつになったら元に戻るのだろうかかと本当に気が遠くなりました。しかし現地の人たちと接すると、不平不満も言わずせつせと後片付けをし、支援を受ける立場のはずなのに逆に私達に心温かく接してくれる人たちがばかりでした。



この地の重い代償ゆえに私達が幸運にも生かされているのではないかと、身が引き締まる思いがしました。

現地を周りながら厳しい現状を目にする毎日でしたが、一方で素晴らしいものを私は見ることができました。それは、被災者もボランティアも関係無く、全ての人達がお互いの為に生き合う姿です。一人として不満を言わず、明るい表情でした。町中埃っぽく、異臭も漂う中ですが、支援期間が終わる

頃には、もつとここにいたいという気持ちになったほどでした。

今回のボランティアで私が特に感じたのは、「誰かの為に生きることの偉大さ」です。いつも安全な環境で過ごしてきた自分にとって、は本当に貴重な経験でした。

「自分のすべてを捧 げていこう」と祈る 気持ちで

大学3年生

七日間の活動を通じて被災地の方々と触れ合う中で、切実な思いを感じさせられました。初日の作業後、「何て言ったらいいかわからない。涙が出そうだ」と地元的女性の方が目に涙を浮かべて深く頭を下げる姿を見ながら「自分は被災者の悲しみが何も分かっている」という思いが湧いてきました。

他のボランティアの人達とチームを組んで、主に石巻市の家の家具や泥出しをやったのですが、土日を使って福岡から来ている人、欧米、アジア系の外国人、職場の反対を押し切って有給休暇を取って

来たという人、千葉から一人で来た高校生、女子学生、主婦といろいろな人が来ていて、初対面であるにもかかわらず心を一つにして作業に取り組みました。

また、被災された方々に積極的に話しかけていくと喜んでくれ、心が通じ合えるようになりました。最後の二日間は「自分のすべてを捧げていこう」と祈るような気持ちで作業していきました。

今回のボランティアを通じて、自分の事情がどうこうという以上に、日本のことにもっともっと向き合っていないといけないと強く思われされました。

日本は終わっていない

ない

大学OB

被災された方々の多くは最初、心を固く閉ざしていたようでした。親族が行方不明であったり、亡くなっってしまった方も多く、心の奥に深い傷を負ってしまったのだと思います。そういう方々にどのよう



に接していけばいいか、考えさせ

活動では、一緒にボランティアをする仲間と出会うことができました。社会人の方も多く、「困っている人がいるのに仕事なんてやっ

参加された方もいました。彼らの目は輝いていて、皆、積極的に行動しました。協力し合い活動する中で、日本は終わったわけではない！と感じました。日本が立ち直り、復興してこそ、犠牲になられた方々も報われ、慰められるのではないのでしょうか。今回の災害ボランティアを通じて、私自身もこれからの生き方に大きな力を与えられました。

被災地に大切なものが生きています

大学4年生

今回、災害ボランティアに参加して得たものは、世界は一つの家族だということです。

希望を感じたのは、被災者の方々

家族のような気持ちで接する

大学4年生

国の復興のために何かできないか？ 何かヒントを得たいと思い、ボランティアに参加しました。

被災地では、政府、自治体、企業関係者、ボランティアなど多くの人たちが様々な形で支援をしていました。自分たち学生には技術や資金力はありません。その中で、自分たちにしかでき

皆が一つになって支え合うことができるのは、本来人間が神様から与えられた性質に違いありません。世界中からボランティアが集まっています。誰かのためになりた

ないことはなんなのか考えさせられました。それは家族のような気持ちを持って被災者の方に接し、家族のような関係を築くことじゃないか。それが最も大事なものであるし、やらなければならないことだと感じました。

社会に奉仕、貢献することはもちろん大切ですが、それだけではなく、家族のような関係を築く。国の中でそういう気持ちを伝えていかなければならないと思っ



浜島代志子
劇団天童／
天童芸術学校代表

こどもはいつも父母の愛、良い家庭を求めるおはなし

「さんびきのくま」



「さんびきのくま」ポール・ガルドン 絵 ほるぶ出版刊

この絵本には苦勞しました。子ども達が沸騰するのです。何がおぼろげな子ども達を沸騰させるのか、大人のリックツではわかりません。答えは子どもが持っているから尚わからないのです。こんな場合、私は学問に頼るのでは無く現場のこどもの反応に心を傾けて真実を探し出そうとします。錆び付いた大人の頭で考えるのではなく、真っ白なこどもの感性に近づくと答えを導き出すのだということです。を長年の経験から知っています。しかし、教育家としても大人の知性、理性も必要なのです。

人形劇公演の時です。くまの家

◇ ◇ ◇

に入り込んだキャンディがおとうさんくま、おかあさんくま、こどものくまの椅子に座り、おかゆを食べる、ベッドに入り込むという場面でのことです。

四歳くらいの男の子が人形劇舞台に駆け寄ってきてキャンディの人形に懸命に言いながらキャンディの人形を動かすのです。「座っていいよ！食べていいよ！寝ていいよ！」ところが、他の子ども達は叫びました。「座っちゃダメ、食べちゃダメ、寝ちゃダメ！」「ダメだよ！見えないよ、〇〇君、座ってよ！」その子は頑として聞かず、キャンディ人形と完全に一体化し、他の子ども達を睨み付け叫び続けます。キャンディ役の私、人形をはめている右手が痛くて手首がどうにかなるのじゃないの、と思うほどでした。

おかげで「さんびきのくま」のテーマがわかりました。子どもは親に愛されていた、安心したい、心を抱きしめてほしいのです。ポール・ガルドンの絵本がそのことをはっきりと示しています。お父さんくま、お母さんくま、子どもくま、暖かい愛のある家庭が絵ではっきりと表されています。忽然と現れるキャンディはいつた誰なの、何を意味しているのと思われまますね。

◇ ◇ ◇

答は簡単です。「ぼく（わたし）はほんとうに親に愛されているのか。父母の愛を確かめたい、安心したい」という不安の心を表しているのです。こどもくまは実体、キャンディは心、体と心の関係です。キャンディは三つの部屋を通ってこどもくまのものが全部、自分にとりだということがわかりとても安心しました。心と体がひとつになったのです。

ほんとうに深い物語、こどもにとつて家庭が一番だということがよくわかる絵本です。キャンディを必死にかばったこどもの家庭は壊れかけていたのです。これは実話です。■

子どもの「10歳の壁」とは何か？

渡辺弥生著／光文社新書
／八一九円(税込)



「壁」ではなく「飛躍の歳」に

子どもの学力に関して、学習雑誌などで「九、十歳までに勉強しないと手遅れ」「十歳までに決まる」といったことが言われる。しかし、こうした年齢の「壁」の根拠については、実ははっきり証明されているわけではない。

著者は、脳科学をはじめ様々な研究を検証。十歳の壁は必ずしも解明されたものではなく、早期教育を焦ったり、手遅れだとあきらめたりする必要はないと述べる。その上で著者が強調するのは、この年代が学力や社会性などが大きく向上する「飛躍の歳」という捉え方だ。その飛躍ができずにつま

ずいてしまう危険性も確かにある。本書では、発達心理学をベースに、九歳、十歳という年代の特徴や、「自己」「認知」「感情」「友達関係」の変化、さらには「道徳性」について取り上げている。

この年代は、対人関係や善悪の判断など自律的にするようになっていくが、うまく解決できずに挫折したり、非行や不登校、いじめに巻き込まれることもある。後半で紹介されている対人構築のためのソーシヤルスキル獲得の支援や、思いやりを育てるプログラムは、身近な例で分かりやすく、学校や家庭で実践したい内容だ。

月の街山の街

イ・チヨルファン著 草薙剛 訳
ワニブックス／一三九九円(税込)



スマップの草薙剛が初めて翻訳した本としても話題になっている

「魂の教育」とは何か

人格教育では、子供たちが教師や父母など模範となる人の人格に触れて良い影響を受けることが大切です。また、「人格」の語源には「魂に刻まれたもの」という意味があります。「魂の教育」は人格の核心とも言える魂の無限の可能性に気づき、その魂を強めていくこと、あるいは子供たちが自己の内面の価値に目覚めて人格の形成をなすことだと考えます。例えば、「大自然に大なるものの存在を感じる」と言いますが、そうした無限の価値、意識のようなものを自分自身の中に見出すことだと言うこともできるでしょう。

■表紙写真 お寺のあじさい

撮影・大塚克己

韓国の短編集。実話を基にした、庶民の温かい物語を収め、韓国でベストセラーになった。

テーマは家族だ。交通事故に遭って歩行器がなければ歩けなくなった娘を一人苦しめないようにと、自分も大けがを負ったふりをして歩行器を使っていた父親(父の涙)など二十九編。中には韓国の小学校教科書に収められた物語も。

■読者の声

無神論と有神論の対比には意味がある

元大学教授 (埼玉県)

5月号の渡辺久義氏「日本人の祈り—自然災害に意味はあるのか」は興味深い内容です。無神論と有神論の対比は「意味」があります。また、「病を克服した偉人たち—ロナルド・レーガン」、人間の行為が人間の運命を作るといっていいのでしょうか。

復興支える継続的な奉仕

東日本を襲った大震災は未曾有の被害をもたらしました。犠牲となった方々も行方不明の方を合わせるのと二万八千人あまり。行方不明者の数を把握できないでいる自治体もありますから、犠牲者の数はさらに増える恐れもあります。あまりの犠牲の大きさに言葉を失います。心よりお見舞い申し上げます。

その一方で、住みなれた家を失いながらも、「命が助かっただけでも運が良かった」と前向きに捉え、不

自由な避難所で助け合いながら故郷の復興を誓う東北人の粘り強い精神力に、日本だけでなく世界中の人々が感動しています。過酷な自然災害の前に、個人の力の無力さを知る北国の人々によって、「地域の力」が世代を超えて受け継がれてきたことを目の当たりにし、胸が熱くなります。

大震災では、全国から多くの義援金が集まっています。若者をはじめとしたボランティアもたくさん駆けつけました。困った人を見ると、手を差し



資料：全国社会福祉協議会「平成9年度社会福祉協議会活動実態調査」
(注) 都道府県・指定都市および市区町村社会福祉協議会のボランティアセンターが把握している数値

伸べずにはおれない日本人の奉仕の心と、危機に際しての団結力がしっかりと生きています。証左です。

しかし、被害の甚大さを考えると、日本人の美德の真価が問われるのはこれからです。新しい地域づくりはマインスマスの出発です。多くの被災地で、ライフラインをはじめとしたインフラが失われている上に、地盤沈下でも海水に浸かる地域もあるのですから、復興には険しい道のりが待っています。

いかに故郷への思いの強い東北人と言えども、この試練を乗り越えるには、全国からの継続的な支援が欠かせません。阪神・淡路大震災以降、自然災

害に遭遇する度毎にボランティア活動は活発となって、多くのNPO、NGOが組織されている日本ですが、かつてない被害の甚大さに震災直後にも増して、息の長い奉仕が求められているのです。

被災地に行き、泥につかた家を掃除したり、瓦礫をかたづけたりするだけが支援ではありません。節電するだけでもいいのです。どこにいても一人ひとりが東北復興のために何ができるのかを考え、犠牲を惜しまず率先して行動すれば被災地はもちろん、日本全体が大震災前よりもすばらしい社会を築くことができるはずですよ。それが犠牲者に対する私たちの責任ではないでしょうか。

毎月第3日曜日は「家庭の日」
11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、「社団法人」青少年育成国民会議が進めてきた「家庭の日」運動に端を発し、今ではほとんどの自治体が「第3日曜日は「家庭の日」に定めています。さらに政府は10月の第3日曜日を「家族の日」として、その前後週は「家庭の週間」として定めました。この日を機会に、家族の強い絆を確認できれば、それは家族みんなへの素敵なプレゼントになるでしょう。

家庭は愛の学校

●皆様の御意見や気づいたことをお寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りでの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。

The Association for the Promotion of True Families
〒160-0002 東京都新宿区新宿5-13-2 成約ビル4F
電話03(6947)7600 FAX03(6947)7761 http://www.apft.gr.jp



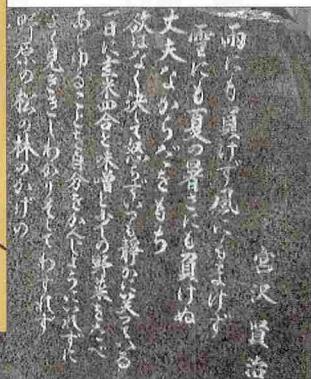
第3種郵便物認可
2011年6月10日発行
毎月10日発行・通巻253号

宮沢賢治「雨ニモマケズ」の世界／岩手

歴史と
伝統の
探訪



(左上より時計回りに) 宮沢賢治(花巻農学校)、「雨ニモマケズ」などを収録した本(画本宮沢賢治)と石碑、岩手県花巻市の「宮沢賢治記念館」にあるボランの広場の日時計花壇



一九二六年、青年たちと羅須地人協会を設立。昼間は周囲の田畑で農作業にいそしみ、夜には農民たちを集め、科学やエスペラント、農業技術などを教えた。自らの生涯を、詩「雨ニモマケズ」のごとく生きた短い生涯だった(没年一九三三年)。独特の魅力にあふれた作品によって、没後、国民的作家

東日本大震災の被災者を励ますメッセージサイト「Kinu311」で、俳優の渡辺謙が朗読する宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」が大きな反響を呼んだ。
一八九六年八月二十七日に岩手県川口村(現在は花巻市)に生まれた賢治は、詩人であり童話作家でありながら、農業指導者として故郷を深く愛した人である。作品に登場する理想郷に「岩手(いはて)」をエスペラント風にしたイーハトヴと名づけたほどだった。

賢治の作品世界には、自身の裕福だった家庭と、故郷の農民の困難な境遇との対比が生んだ贖罪感や自己犠牲精神が映し出されているという。

また幼い頃から親しんだ仏教も強い影響を与えていると言われる。人間世界の現実と仏性の葛藤に苦しんだが、それによって万物に平等の生命を認め、すべての動植物と共生共死の関係に生きるデクノボーの世界に到達した。それは、風や宇宙から豊かな霊性を感じる自然人の生き方でもあったという(山折哲雄「デクノボーになりたい私の宮沢賢治」)。それが作品に個性的な魅力を与えた。
また『銀河鉄道の夜』のようにキリスト教の救済を取り上げ、全人類に対する宗教的寛容に達していたとも言われている。E

2011
6
no.253
En-ichi

●発行所
NCU-NEWS
(東西南北統一運動国民連合)
代表 河部利夫
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-13-2
成約ビル2F
TEL.03(5362)0631
FAX.03(3354)5017
E-mail news@en-ichi.org
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義
京都大学名誉教授
定価 400円
[1年間5000円(送料込み)]
郵便振替番号
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。